平成 27 年 6 月 23 日

先史ウォーク「太伯周辺の神武天皇伝承地」

「西大寺一宮　安仁神社の遥拝所めぐり」「備前一宮論争調査」第一弾

先史古代研究会　丸谷憲ニ

西大寺一宮　安仁神社に遥拝所があります。遥拝所は、吉備国の神道史から重要な神社です。
安仁神社の遥拝所は、出雲大社、伊勢神宮の他に、
①　天神社・②　滝神社・③　綱掛石神社・④　伊登美宮・⑤　松江伊津岐神社です。
太伯周辺の神武天皇伝承地が『岡山県神社誌』に収録されています。他に、
①　麻御山神社(おみやま)・②　幸地山神社(こうちやま)です。

麻御山神社(おみやま)　岡山市東区邑久郷 2948　御祭神　天日鷲命

　神武天皇の御東征に御供をした者が、天皇が吉備の高島に御滞在の時、詔によって斎服を調達するため、ここに麻を植え紡績なさったのが元となって奉斎した神社です。御鎮座の山が麻御山です。

松江伊津岐神社(まつえいつき)　岡山市東区邑久郷 1500　御祭神　五瀬命　若御毛沼命（神武天皇）

神武天皇が御東征の時、皇兄五瀬命が太伯海に御船を進めさせ給うて、この太伯村邑久郷の入江に船をお泊めになったのを、国人どもが待ち奉った地であるから、松江は待江説がある。

幸地山神社(こうちやま)　岡山市東区邑久郷 1328　御祭神　応神天皇　神功皇后　姫大神　天御中主命　菅原神　幸地山は「いでましどころ」と称し、天皇行幸地の意で、神武天皇御東征の時、御船を停め山の南端鳥越から、景色を眺望された所である。

安仁神社 岡山市東区西大寺一宮 895　主祭神　五瀬命　配神　稲氷命・御毛沼命

神武東征の際に五瀬命が数年間この地に滞在し、神武天皇が即位の後に五瀬命ら皇兄たちをこの地に祀って「久方宮（ひさかたのみや)」と称した。『続日本後紀』の 841 年に「安仁神預名神焉（あにのかみみょうじんにあづかる)」とある。『延喜式神名帳』では備前国唯一の名神大社に列せられている。

咳神宮

　あちこちに道標があり流行神様である。背後（東）の山上にある「瀧神社」の境外末社である。「咳神宮」の前に小川があり、橋の名は「堰神橋」、堰が咳に変わった。「船関所」説がある。古道里と書いて「ことり」と読む。

綱掛石神社(つなかけいし)　岡山市東区東片岡 1695　御祭神　田心姫命　狭依姫命　瑞津姫命

　神武天皇の御東征の時、御船の纜(ともづ)を掛けた大きな岩がある。主祭神である五瀬命が初めてお越しになったときは付近は深い入り江で、船の艫綱を掛けて停泊した石が後年、信仰の対象となった。

伊登美宮(いとみ)　岡山市東区東片岡 1190　御祭神　幾多神

　伊登美宮は屯集宮の義で、神武天皇の御東遷の時、従い奉った将士の駐屯した処。幾多の神を祭る社。

瀧神社　岡山市東区西大寺一宮 1653　氏子　岡山市西大寺一宮、東片岡一部（古道里）
祭神　瀬織津姫命　大己貴命　素盞嗚神社
社名は前方の懸崖を通して直下転流する丸山川の瀧津瀬に因る。備陽国誌は瀧権現。本殿は嘉永 6 年（1854 年）改造。明治 37 年 8 月国幣中社安仁神社の旧随神門を譲り受け建立。

天神社　岡山市東区東片岡 1593　氏子　岡山市東片岡の一部（古道里）
祭神　天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）
昭和 58 年 10 月、幣殿・拝殿を再建。、古道里近郊の崇敬が厚い。

百島一帯（お堂を突き破った巨岩　這禽）

亀石神社　岡山市東区水門町　御祭神　珍彦命
　神武天皇が吉備の高島宮を出発し、速吸門（はやすいのと）に来た時、大きな亀にのった釣り人が現れ神武天皇の案内をし、その時の亀が岩となった。亀石（かめいわ）を御神体とする神社である。

乙子神社　岡山市東区乙子 237　　若御毛沼

　乙子城山に鎮座する神社。御鎮座の山は往古角岬。若御毛沼命は五瀬命（安仁神社）の御末弟であり、乙子大明神と尊称し奉った。「備陽国誌」には乙子村若宮大明神。神武天皇が御東征の際御登臨された。

神前（かむさき）神社　岡山市東区水門町 715　　御祭神　猿田彦命。明治 9 年　珍彦命を奉斎。

　中古の社号は神崎大明神。神武天皇の御東征の海路を御嚮導された神であり、例祭に高島神を祀る。

幸島稲荷神社　岡山市東区水門町 715　御祭神　高オカミ神、倉稲魂命、瓊々杵命。

　宝永 6 年（1709 年）に旧・邑久郡土師村(瀬戸内市長船町）木鍋神社から勧請し、東幸島山（水門宮山）山上に祀った。「幸島」は「コウジマ」と読む。

参考文献

岡山県神社誌　昭和 56 年　岡山県神社庁